

「減災のための長野市りんご農家応援PJ」

勝浦ゼミナール |
長谷部・高久

活動内容

現地に出向いてりんご農家を支援
2022年10月8日(土)～9日(日)の1泊2日

きっかけ

2019年に上陸した台風19号、これにより長野市のりんご農家が大きな被害を受けた。この出来事はゼミで大きく話題になり、「台風が来るのが分かっているなら来る前に一気に収穫すればいいのに...」という声が上がった。それに対し長野県出身のA君が「りんご農家の多くは中山間地域や過疎地域、そして、りんご畑を管理しているのは高齢者ばかりである。さらに、木に登ったり、脚立を使ったりと大変な仕事ばかり。りんごを多く運ぶとなるとかなり重く、一気に収穫なんて人手が足りず出来ない」と発言。そこで私たちは「いっそのこと私たちが、収穫のお手伝いが出来ないかな～」という提案が上がり、A君が知り合いのりんご農家と私たちゼミと繋いでくれたのがきっかけだった。



コンセプト

- ・ 収穫期の人手不足の解消
- ・ 被害に遭う前に収穫を終えることで被害の軽減





5200個も収穫！！

活動して思ったこと

普段出来ないような貴重な体験をさせていただいた。りんごの収穫はとても大変で、一本の木に予想以上に実っていたり、かなり高い場所に実っていたり、さらにずっと上を向いて収穫するので首が痛くなった。何気なく購入するりんご、りんご以外の果物や野菜でも多くの労力があって初めてスーパーに並ぶのだと、実際に体験し思った。食事の際、「いただきます」をきちんと言い生産者に感謝すること、そして食材を無駄にしないことを心掛けていきたい。

最後に

この活動で、「行動力・主体性・思考力・チームワーク力」が大きく成長した。初めはどのように収穫するのか、どのくらい実っていたら収穫ができるのかが分からなかったが、時間が経つにつれて、各々で判断して収穫している姿が見られた。どこに脚立を設置すれば効率よく採れるのか、試行錯誤することも多かった。そして、ほとんどが一人では出来ないのも仲間と協力し合う姿も見られた。「すごく大変だったけど楽しかった」という声が多く上がり、達成感・充実感が感じられ、大変有意義な時間を過ごせた。

農家の仕事は大変だと思っていても、実際に体験してみると思っていた以上に大変だったことを実感した。普段食べている食材は生産者達が汗水流し、丹精込めて作られていることを身を持って実感出来る活動であった。

